

# 三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

## —提案の概要—

みうらラクアパートナー

【代表企業】前田建設工業株式会社

【構成企業】東芝インフラシステムズ株式会社

株式会社クボタ

日本水工設計株式会社

株式会社ウォーターエージェンシー

# 総合力で創る持続可能な三浦の下水道

## 課題認識

### 1. 構造的な収益性の低さ

▶ 計画人口が少ないこと、一部の施設・設備が過大であることなどの理由から採算性の確保が困難で、使用料単価・汚水処理原価・維持管理経費回収率等の指標から、健全化の必要性が示されています。

### 2. 今後の改築コスト増加への対応

▶ 運営権対象施設は、供用開始後24年が経過し老朽化が進行するなか、人口減少に伴う汚水量減少が予測されるため、ダウンサイジングを含めた適時適切な改築が求められています。

## わたしたちの意気込み

課題解決への強い使命感を持ち、高度なノウハウを有する企業が結集して当コンソーシアムを組成しました。全国の下水道事業やコンセッション事業に関する豊富な知見を活用し、**持続可能な三浦の下水道**を創ります。

三浦市下水道の課題は、我が国共通の課題でもあります。本事業で得た知見は、体系化と更なる改善を行うことで、「**新たな下水道事業モデル**」として、下水道事業共通の課題解決へとつなげます。

## 事業目的の実現に向けて

本事業の目的は以下の3点です。

- 民間事業者の経営視点を取り込んだ中長期的な投資戦略の改善
- 収支バランスの取れた下水道事業の実施と持続可能性の向上
- 三浦市の魅力向上に資する下水道事業等の潜在的な価値の創出

これらの実現のため、当コンソーシアムは「**経営の最適化**」「**技術の高度化**」「**地域との協働**」という重要事項を定め、それらに沿った施策を展開することで課題の解決を目指します。

## コンソーシアムの構成

▶ 当コンソーシアムは、コンセッションやPFIの実績を持つ総合建設会社である前田建設工業(株)を代表企業とし、トップクラスの重電メーカーである東芝インフラシステムズ(株)、同じくトップクラスの水環境ソリューション企業である(株)クボタ、大手水コンサルタントの日本水工設計(株)、国内最大の上下水道施設維持管理企業である(株)ウォーターエージェンシーで構成され、下水道事業運営における高い総合力を有します。

## 三浦市財政への貢献

▶ 三浦市が期待する改築費や維持管理費削減を実現したうえで、**運営権対価として1,000万円**をお支払いし、三浦市財政負担軽減に貢献します。



# 経営の最適化

## ● 運営体制の最適化

- 専門的な知見や増員が必要な業務には構成員が全面的に支援することで、通常時はスリムなSPC組織としつつも確実な運営管理を実現します。
- 災害時や緊急事態の発生時には、構成員・地元企業等との一体的な対応体制を構築し、復旧活動を支援します。

## ● 機動的かつ確実なファイナンス

- 必要資金は、全額株主から調達して資金調達コストを抑えます。
- 立替金の支払いによる一時的な資金ショート等を回避するために、必要十分なリザーブを確保します。

## ● 強固なガバナンス

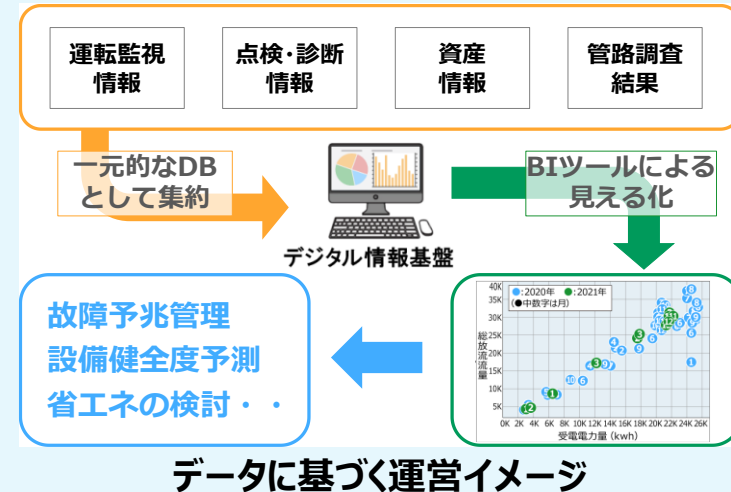
- 経常収支比率、自己資本比率等をKPIとして設定し、経営状況を把握します。また重要事項達成を目的としたKPIも設定し、定量的に管理します。
- 0～3次の複層的なセルフモニタリング体制とし、ISO55001（アセットマネジメントの国際規格）の考え方に基づいた継続的な業務改善を実現します。
- 情報公開にあたっては分かりやすいデザインによる「見える化」を行い、事業透明性を高めます。



# 技術の高度化

## ● データに基づく運営と適切な設備投資

- デジタル情報基盤を構築して、各種データを一元的なデータベースとして集約し、劣化予測を含む精度の高いストックマネジメント計画や、最適な運転管理、施設・管路等の点検・修繕に活用します。
- 散気装置、送風機や脱水機といった主要設備を実情に見合った規模にダウンサイジングし、ライフサイクルコストの縮減や脱炭素化を追求します。
- 水処理棟の屋上に太陽光発電設備を設置し、「ゼロカーボンシティみうら」宣言の実現に貢献します。



## ● 最適な技術導入による維持管理の高度化

- 新たに導入する遠隔監視システムで24時間365日運転状況をモニタリングすることで、設備の安定稼働を実現します。
- 既存水処理設備に計測装置や制御装置を設置し、送風量を自動制御することで、安定水質と省エネを両立します。



## ● 様々なニーズに対応する体制構築

- 本施設を「技術実証フィールド」として大学や民間企業等に提供し、将来の技術変化に対応した、本事業に適した新技術導入を可能とします。



# 地域との協働

## ● 地域貢献の推進

- 三浦市にて地元企業への発注実績がある土木・建築工事、管路工事、維持管理業務等は、引き続き地元企業への発注を優先します。
- 市内在住者の雇用を促進するため、事業期間中の三浦市在住の従事者割合を高めます。



## ● 下水道資源×地元産業による価値創出

- 下水熱等の下水道資源を農業に活用します。東部浄化センター敷地内に設置する農業ハウスでの栽培を試みます。
- 作物の選定や栽培にあたっては、教育機関や市内農家などとの協働を計画しています。



## ● 地元で愛される情報発信と協働連携

- 「みうら市民まつり」や「三浦海岸桜まつり」など、市内で開催されるイベントへ参加し、事業を積極的にPRします。
- 下水道施設への小中学生の社会科見学や職業体験を積極的に受け入れ、三浦市下水道事業への親しみや職業としての魅力を高めます。